

# 第29回 うつのみやこども賞だより

平成24年度 8回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ラビットヒーロー』

如月かずさ／著（講談社）

『ヘンダワネのタネの物語』

新藤悦子／作 丹地陽子／絵（ポプラ社）

～読んだ本の感想より～



●やる気を出せない宇佐が熱心にうちこんでいる姿に感動した。ヒーローものをテーマにしたのも新鮮でよかった。

●日高先ばいや佐倉さんとの交流を通して清春が成長していく姿がえがかれており、面白く、話にひきこまれたし、話全体が印象的ですので読みやすかったです。

●いつもは気弱な宇佐がヒーローをやろうときめたところがかっこいいと思いました。

●ヒーローショーをすることになって、だんだん宇佐がかわっていったかんどうしたし、宇佐の豆ちし

きもおもしろかった。

●清春が、よわむしなのにヒーローをやろうとしたのがいいと思った。

●とてもおもしろかったです。マスクがこわされた時はどうなるかと思ったけど、最後はショーがうまくいったよかったと思いました。



●アリと直の「きずな」や、ヘンダワネの種のが気になりました。それに、ヘンダワネが食べたくまりました。おもしろかったです。

●直とアリが少しずつ仲が良くなっていったおもしろかった。

●直が描いた絵を実さいに見てみたいなあと思った。

●直が「絵ばかりかいていてヘン」と周りから言われても、ずっと絵をかき続ける自分を持っているところがかっこいいと思った。イ

ランの料理もおもしろそうだった。

●アリはお父さんやお母さんのこきょうがだいすきだけど、ヘンな人と思われなくなてうそをついてしまう。それを知った直が、それでは自分をきらいになってしまう、アリにはイランの事を好きでいてもらいたい、そう思って絵を描いたのがよかったんだと思いました。

『100 回目のお引っ越し』 後藤みわこ／著（講談社）

●100回目の記念の引っ越しだからこそおじさんと主人公は徳重さんの事を引っ越しさせたかったので、引っ越しが終わったときは本当に良かったと思いました。引っ越しするということはいろいろな人によって考え方がちがうものなんだなと思いました。

●タツとおじちゃんの関係が良いな、と思いました。全体的に読みごたえのあるお話でした。

●100回目の引っ越しは家に荷物を運ぶことだけだと思っていたら、他にもいろいろあることがわかった。

『ハンナの記憶 may forgive you』長江優子／著（講談社）

●ハンナ・フォックスという人とおばあちゃんの間を調べる波奈子。二人は一体どんな関係なのか？とてもワクワクしました。そして、本にも書いてあったけれど、見つめているかぎり記憶は生きつづけるんだなと思いました。

●地震のときのことがかいてあって、私もたいけんしたから、ハンナの気持ちが分かった。

●内容はとても濃くて、深く印象に残りました。おばあちゃんとハンナの交かん日記も感動的で良いお話だなあと思いました。

2013年1月6日